とりいまついせきつうしん
鳥居松遺跡通信　№13

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市生涯学習課文化財担当　2008 年 6 月 16 日

集落の周りに巡らせた堀（環濠（かんごう））が見つかりました。

鳥居松遺跡の最下面において、弥生時代後期前半（約 1900 年前）の集落が確認できました。この時代の集落には、ムラの周りに堀（環濠）を巡らせていたことが明らかになりました。ムラの内と外を区画する堀は、弥生時代において特徴的にみられます。鳥居松遺跡では、1996 年の調査でも堀が確認できており、集落のおおよその範囲をうかがうことができます。

■堀（環濠）の確認状況

堀は、幅 2m、深さ 50 ㎝ほどで、断面は箱形もしくは、V字形をしています。堀の断面形や埋まっている土の状況など、1996 年に調査した堀とそれとよく似ています。このことから、今回確認した堀は、1996 年に調査した堀と同一のものである可能性が考えられます。

■堀（環濠）に捨てられた弥生土器の出土状況

集落に堀（環濠）が必要なくなり埋まっていく途中で、大量の弥生土器が捨てられています。これらの土器の特徴から、堀（環濠）が使われていた年代が、弥生時代後期前半（約 1900 年前）ということが分かります。

■校外学習で小学生が遺跡を見学

校外学習で、鳥居松遺跡に大勢の小学生が見学に訪れました。

6 月 5 日（木）瑞穂小 6 年　160 名

6 月 12 日（木）萩丘小 6 年　146 名

（今後の見学予定）

6 月 18 日（水）伎倍小 6 年　67 名

6 月 20 日（金）泉小 6 年　114 名

調査は終盤を迎えています。

鳥居松遺跡の発掘調査は終盤を迎えています。6 月 20 日（金）まで補足的な調査を実施した後、埋め戻し工事に入る予定です。

編集：鳥居松遺跡発掘調査事務所　　TEL　053-442-0087